



本阿彌アヤサ

高木家藏

平遠の角アヤサ

高木家藏

まうきんす枝ハくもおうわぐううふけも同らもく
うあたアあるアうわむテもう年暮のう
ぬいこうひのあきすハあそをくはるんけい
トヤを分別くまゝく魚つたうキ心うすみわうみ
るんうんハ四ナリアまほまく一人もあうとき
やうぬれとされあきてじゆく一きしへうん海う
トモテナキういなわけるまくぶよじぬびん
にやありうんじびれを一つなまると拂むう
あつて魚んうんじれ小ひとくやくくいゆんとたす
ひのうれ月のくふーこをすき十月とやにむまれす
やくてト一ほまとうほとアニ年二月少てえん

のひやとよきなまふはすとみまほつてかみつ
やとよそみえうわけまかくらひのぬりままであ
さうまきあハシのじく少ておくもむつともあ
ひうちひうのすちやねあくとくぬあうと
おそ流しをあわきう風ふきむまあととむとあくぢち
をうひとおきあ飛とくといときうとえまはーと
ーとわあけてあううやとりよてうくとそ
まひきう金んちんをとるてうまーの事ともや
あうりぬのうとをや小よもおふまとさげをまよ
あうやとそうひくとなぬぬきいうすてよがい
せんとあびへもくひぶひれあわうとらよゆんあん

れぬよひわ志りくまさせおくとよらうとふ七ナ
福んうりのと母はたあいよ底ちわかんひけーと
く立ちとまれうせたまよとうけたてりまはうやと
みとせりも春秋とだないととおくわうるよりあ
かくふいりある人ふまほわまううもくよやうるだ
たすくにんさんかいうしままきううの城月日
うけうふあつますーとほもきりききようけーゆら
たうへたとうんすくとくぬせんあまくらのらまよく
一よーよーよーたすりまくもあまほやううあ
うん尾あくゆ風に鳴がうあうり次ハうんよまうせ

聖山もすてなまよへせんあくきん神里よ
まかきてたらんせよくれたまくと尊んちへけふを
思ひうへハシルかくもけらんとそ一日ふとや
りくとすふときやまへすてられけるうそすうれん
あひのなかゆらこらうやうんとくーくんみそ
うへても志するかくもけうやうせんとそ七日とやに
人をかきりほりつけきもあふんすりかりのも
うすあふ本をとにのみとひろふとくしき
せしするものあらゆはありふまみあそひく
うせつうひとえはきてたはまハなふうのそわまうう
せうひ小車うとうをりつが利されものとを

きくとわきもなまーのと方小ぢりすとうとみ
すげこれもあとをきりんとあうわけるをあくと
ふけかれやうく小けのひあせうのきふー太
いきはざんちんかまんにうこきらありくの
をもしもうわけりきさもうこれとめをうれひきと
うりうかうりうとひなまんはうんよやもあぐられ
ううううあうをあうもひなちあてそれつーきめうり
あひなまよとやうくまけのひとあきまくあまうう
トうれいキ心までくじくぬ事うれし話す

へる事あるきのをぬかせひーまよゆくと
さうといひ一ひきわざれのちに山へりよのハ
あはきわぬとふりやく一見し乃うもみあはせ
こぼうやんをしゆごーをすうと七日れほとと
おくわけるものはやこすみてうの大ふえんとや人
れりとるうれもみれあれをれとあはれすとあひみ後せや
たい人事とふくふもすおりりに角く一見ふし
へまりきいのられけまハ七日すきんすむりうほよ
うきのぶさんとうづわけまの山のうきりよ
うちす一人すそおきつわとまでやういく志狂くえん
しやうはゑ人なわとも後世やたひへーと

はむらうよあつりてあらあくふとまちうとせと城
あぐくやまへりきうあこーあくとうつひのふりやま
うれあさあき人すううれ称あひこれと大ふうと歴
あらむらうよひうを終ふにすよとせやうとくとく
うれのせもあくよアソウソウ色しけはれめうらじ
うけきとも用をとくとくとくとくとくとくとくと
をみえうとけと大ふうんわきよづらひいたすりて
やつてもやく一とつよふ城はきてうあいうまわす
かくとすきりはと小七さいのまれうひひいまん
さいたうもきのまつーけひちんはうへれがせ
られもすうせらーせひちんうーたうひと一きん

すたまきわをとひてまきうとゑおちんとまあふ
にくさうすたくらんひぬとひりにまあことす
トあゆるさんぶのとまんなぬゑとひしらもだつもやなわとあ
さんうんぶのとまんなぬゑとひしらもせりし
うあれまわなとはやにおよび日くまねきとてい
ちやうはまうすよいとひしきれぬとすもにほを
けりぬのうもとだつくまめわへりとくらう
くらへゆまはつてりあそひとて太刀あれあとのさや
をもう一ねつみつぬきうらうとくとけあ
うあまめあわなむさんもう八らうとくとけあ
せいさうよりせひなうれのちうちきちうばせ

て一トやく二すん小つ船ざらうとせ八かく小くとを
たてくがとくにやいとをはをあひれりとまはだ
くとくせでちくう小ぬとせらうとぬをさ
へくまをとみうんきくうとほうせうとみきの
さわきよああつこうちやうちやく一廢のとみうく
ほ角くゆかく乃きのともじやく一廢のとみうく
きすとほくぬはあうわきわうとめの徑うう志トやう
よもじと大あきんよとりんじくれば事度、ト
およぬうひとえんお大一ゆとくくくとちふ
そせずとあうとれけきとそノ山ハ一ちくニ
山まれ事すれはうとてうあひやへまよと一廢

ほせらんとあくびでよくちやかぐの思ひに
んとうめうりあんやうれとおこあいたすひとよ
うまうまうまうまうまうまうまうまうまう
かつてまーはえすうやまひやせひうをつてあつこ
ちやうちやくみんしやうよおよよーくちやみ
きいもかもあやしすそにら、たちすのうの
わらんへたにりぬくろきほとほげじまれとつうう
うわよあびくをもんまいともそせううふと
みわき以後たううんゆうあふへつゆあく一の入
もの一人あくふすあふへつゆあく一の入
よーうんりそせうとむがくあたまよつきういぢ

うぬけうらふあるてしむとううん小やされけまひ
けいあんの終よやうしゆ依きうもいれううゆう
はまほらこと教えれくへたくわくへとうやし
うきけるやくくせうりをちこすりのなまうんくト
されたちこそ人々きときとみい大のまくよも
をたすく見りうりうりうり称あれらすちううあくわき
まくのをかくととくらまくうりうりと称ちやう
わまたうかうてそまくくくううううううう
いきうんとくらぶけいはみらる物かうり一つ二つ
ひとつとーうのちれたすひけるやうハはゑんハ
万すりよううううましませくうんせたううらいまとも

あはくわりひうをまつまへるん乃うせうれ
くふもくももももももくくくくりみもあのりせ
繪とゆきの絵をもやわくけてそほかつてまうるん
あやまとあうせうれもらへあきと安たすひてまう
いそれとくらそのたまよとあくろへてまう
モ一あくろれとらそとあひひてやうや称とい
くらまふこうあらま就をこううときとあうせ
あれふい何ううさうくく角あんせひうけたすハ
らんうそひうま心をせきめんしておりう
リちくぼくくとあんじかくーをとよわねう
やううあくきやうふれもかうひてとかくれきも

よりくは情坊いとまやうをくくきまうあうれ
のうちにおふやう日が國すわはやぬみかわやわ
かくとうおそうわきうの山うひうくすみう
たく少くといたんあうりんいあう称えばう
りやあもへとももうとくあひくとくうじうへ
いはま方もうへうなちよはきうくうのをうん
する小日かふれゆうおそう一業えのううみん
もちうかすえられうらとくへあやふれもれうたう
みやうぶ少くまうせは大あんえそを一字ふ食のし
かうれんふれもまつーうちみととたのとてう
とくれせへあくやう乃くうやまよアあくじう

トは事やどそをかほすかとぞたわけておぢわ
にうきよきよひされやうてういをすもだんとくい
だんとくでりけまいたうもわの法跡えれをんでく
ちんのじゆく一廢きつわ終ふうやたうさんとく
きてりふまかしゆつけしたまひけふやくん
あうそろしやうの人にすあひてきかあふ風ト
そそとをすたゞくやうをおほーとけよなわ
あく一廢きたつてちをあけよとのびくともだ
するものあくにくきみのやるまひれ一々小う
へもうちくときみせんうしういとこもだんす
せつちやうふふへうすあけほハ物みせんそりよ
まよよ戸とおやづらうちへひまと見おぐと人一
にんもあられのちんとゆふぬういだんと一き
ももかうきやうたうとて若をもかうけれほまく少く
くつてしまふさんうと画つらすとども方ふき
きのそりときやうはうとやばくへまさんちやう坊
ちやほくへ来それともまくとあくらーという
のむすーもうといも教へとちの手心れわんの字と
とち志トやうはまんのけいれ字ととまを年とほくへ
トもいたうひが意坊年まと立度すがことうとくへ
まも佛力ほまくとひとすもだんね立ういやく
せつちやうちうたうとやゆんまこおんまゆこのよ

ういよくへこもうやいなやことひてわきとこえ
てまのせり志やうういハ物見いのちとくわさぬす
えあとりふともゑんけひりあことあくわくむまの
きんしゆそとハかたよまはかいをほにわくとけゆ
トおへぢうたうひとヤハねすみをぬりうゑん
けほと刀のういとうぬすみととづきほつ
ハたきうちわちやのんういを女人アチうけぬこ
うんふれ山おしゆとくしていつてうけかいをハ
おりすへーれととこむ代ヤナウマヨコうい
リは人坂よりうんじわと少はまよこをすをう
あよきのかいとよだきう風じわんしゆうひの

リはくうん紗んくへんやうとそうんうたきやう
うのふれこらんやゑんけいにおぐわんしゆする
まあるへうすみういのうちこういきいたきう風
じよくく佛きう路ととうううソヒカツ
うくもやういもたらしらううそくまやうらへも
とす所もくわゆれとしゆふくまきのちうきうちやん
かいうて六あまの三らう佛らやううんれ衣小せの
かうひけそみけふきあくきはえうほよゆきじゆ
そゆゑまたちうる袖をひうへてすやうちまハキ
すもきうりうすよひげんあせんはうん一れ
ももひうたうえん一れとせそのはく一れと

生氣仕事する者とはまことにあつたのを義方兵部と申す
清跡やはなわてくれ又とも志しやうふもすれ
てしもとを一ありひはあつたをハ店もうりは衣
をひくとりよしゆんういまでりやそよありひと
ひすとヤされえれもあんけい史ひてそあとハ思ひ
とすもこふくわひすわひうへんをとよ
とまかくかかととてけきもあんういれをみ
ゑせきのとりあひすありうてきりうわふん
思やくくこととふねうすむわう方へりうせびく
うまきのじらをまうせんとくハあんけいや
やうほもうかでなまりんむたな事ううき

えだむれりとくとくとぬれらきもみまうと
えどうとうのひととくめうるやとハ行くと
きくましゆんういとがややうふみえきうまう
にひととくとくとくとのひあらまじくさはもうれや
まひづかしゆくらんうつとくましハツのあれう
うわよこせうけてうちやかによらいまくさんじ
まふまきまでのうあとももほはう程れ大きやう
うかねと一きうとほとほのへへあるまくじうりや
おれいのちやを一れとつまくにすて

たんのふがぢゅうたんとするまきねきや
とそりそたとうととぬきくわちとくら小袖とぬき
をまくはれ太くらとぬきびとくらひり一つ不
もきな一てゆきハシロをこうてよ太くらとまく
らやソクンの衣よせいうおけさとけぬまくわ
をもれも本刀つえフはまくくう拂もうとよ
あーきとをつてりよへき一だんまきかうしも
はとおわせされいやめられてくくはうよとくま
めんやくならとひしけるうれうち小ありよやうそ
行きまやうまきまく少くちうたうう
いとだむれほにねすまうすゆ少ではふけまとも
おまわとがまくとくらハナリとやうわう
もやなんとわひてんくふトキく人をきうへと
まくせんとひこまき太くらよひほくの小袖城
えれきをまくは坊とやせんほうとひうを模
あうそらくくとくら物ときくきとのびくもさやう
すおわせら被くと一かうりんやくとーあひよ
かくれをまくのよけきうのをあくとくとーあひよ
ひく利とまけてきたまくとづよにらこぼをう
まくまくとあそぶこよやるひくとまくひ
もわれらうそう小袖とーゆく取くまみく

くくほともやうんゆうへはようたうとくも
アおつたてうあわけらうたうよわちもんうい
いと風ふひでう風うんとおびへはす、じまくも
あまへとくえんよ七もやへもはうんけいへとく
きんたちやてあぶ程のたうしやうかくひこす
まいきけるもとよりあきうるものふ被ハふきあくせ
ゑとよのて老僧のうれうへをきうめうすあ
やうこういとくうとううへようくりうく
りぬきの庭う僧うとくへようくりうく
乃小袖にきやうもんひひうれきを年まとこうえん
とみえられいおりうさきひら、よがうやくかやう
乃すりをややうへまやう風くうれ日もくあくほとに
あやんういればうへたくわやうでかくおほじうも乃
んうやうはうくは拂もうとほくへんおき
アトヌうのあかるくあらもくあんうたもんおき
ほりきてやうけはうへとひすくきやうとくも山は
へそりかわくううとくもんけいもりふやうとくも山は
くそつあせえう若とくもううへ日を風をもやうり
うといこうひとくもくめうりうへ日を風をもやうり
うほえふうのあうをもきだる心とねうてうやう
ううとくもくうへのめいあんあうハ一ゆ

やまひ天子とたふあく海のうちよにあらへ
いさうひをせんやはもうちふかなくておあゆ
とてうのこうちうきと小ひでまふーるバ
れそ大ちんむ称えわうへはつひそとたち
をゆるやくすん刀も九もんふうんれあく一尺六
寸のうちうなあひうへうちてちんちやうゑし
やくぬきあうにとされりあみてよとまやわほ
りそうせきうきすあれもうせなゑをくまけ
ねほとイの日とや小たちうまううちふをう
ちりうけふまわふれようひてゆうせたまく
はひまうきのうめやううりてまふせんとてうせ

はきてゆきけるうあくにまくせびれうてうちおと内
くいすまきをおきくわきくはんすわういらう
ひてうりうる一日までともみえす日ハくまねき
も行ぬ利よあそらむ称えとくへあはくよふちやと
うてはうとや上されいまくうくやうの事ハ
あとおわせらううりひとむ称えうひらう取くて
うくそくそんとーてうやどへううへつけふうれ
のち年暮立方あくふはふそくあくやししやうそく
すりとつゑうらそのう立魚の立魚た清つとも
うふきの上まれあわけるもへゆき小松との店

ゆひなはまくせよあやうくとまへらせ

一やうてそれ一ぶきやうはあまうすをりよ
ハモ比平あはおもせとりへと何すにうめよむよ
ふとさやくまやうもやうもやうアラカシテナホとう近く
ミヤテんとソヒシレハ魯んけいやうは上のあわせ
小はたちハ竹ようくあハちよがたんつゝみの
つくわたりまつゝろみくらせよとのは事すか
とくても雇すきらのとのこととてうのみのじくに
ほくわたりまつゝるキヌラウロスヒトあふさゆくれの
ぬきとをあひうてこまうよのへまつまきまうくら
少くやをだを此るそれ一をよくほりてあひゆす
みをうちくふりつねきまくせ承認するくもう
てよきやうよ門ひばとまのうて候つんまく
なまちくくよて内へ入よび日れきあくまでもまちの
けきせんへうきけきハニメリ一城こまく廢へヤ上
きよくさやうのうりハむりひもよすとあわせく
たこれえれもらくもよすかくまくわみせてうか
室川アリ四郎左衛門吉次そぞもくまきまくくの上ま
きくる所へひきはまやうこありくとすわまさかにほ
うひふらはしゆつ一のひここれひきよめんくへ
くらうなわくろいとたゞ一ノうろいりくまきれか
りせわれすりそれうとのまもにとくのくまいうち

きやへしそりしてまひとあひふと

えきわらにわうまふるらのこてひやくたんみう
きのす称あてもよきうへてほぬきやうはうんせよ
うそりうるをんけいこれとひそ大アヨモロヒ
拂まく少しそれトキテキソクハカラミトギヤ
拂まく少しそれトキテキソクハカラミトギヤ
だんれたちくふうせきにきくうめくめく
ちかうへも後四トモ六すんのちとす利とぬき
ほのうは魚とひ虫あす人あわたやと大アホあひて
たよわあうわくも志をるがからまやくそくとせんと
あわてにわうたちにううううわけふうへきくちまを
見て思ひそしるまわはりはりここてうんこ
うちとみてうは肴肉をう。一トモ法跡の有とツヨ
ハ先なはアリよわうとくうめきまれてうふよ
ま一トモそきうちへつまふとくわかれたる參詮
をうけまよ一すきはよのそきまれも年暮ヤヤ
くあもうもひま一おも野びくもまきはねがうめ
うふはとうちとリまそみをよアソリして
くだんれひうけとうもきてほいらとおとわえ
せんうのうさるとゆほをあまセシ度ほひちとうち
うとへとこえけるううれのもハリうくもすゝうせ
にけまうへくヤうハそんのすハセリ、

ほきのう月のまくはあらすじやとをつゝ

あそんそらんとあひへーとせめるすこゝう被

しけきども大きめひてそのわけるてあんげい
ほくくもありよやうすてうわけりぬまへそそ
たれあらはらちうたうひとやすらぬだうりそ
きうれういとくじんのもへゆきたうとひ
ほ三人のものもよきまうとくせもよとくさの
よろきあへさんものせうとて京のゆりあひ
あれうんうんのものときこえられへきうもとへゆ
うんうそせうのうえ目れ一やうそくよはくだんの
りまきらうのこてふあくすゆめとよおうふ

くふきあくはへよばよソ急のの方をぞとせハ
たいかくともうへあきやくしま取くわけ四町まち
よ大かわとわらんくいこうとくしまけておう
ますナ人をくうううかわゆとやきやうちやうとと
のくあせんのすあうへはくとくようううんと
わきをそんへゆうけいのものもめとけすん
乃うちへぢんなりもよし欠ソよまくうやはり
あうはとあうくとあゆみひゆゑんうらうばをハ
とへゆひりましよき小くちとかまくせい

れ太くちにこうゆはくちのうふまくさわに

あもあれにうふとあひうへこも力をうて
りちくあそび大はく画いドシテあへとく
のとよとあやうしてうーさうほもとまちうし
家も、からうどうをナ人ニミヤウおほくたなとをさせ
はともかくある所へ画んけい大もとあともえ
きんちくすわくまよ壁うんけいのちあきやうあやう
らうまい小つきてはくう一つあけてうひとくとよ
りまえれ城きくおとせよりくをたてこそゆう
ちあきやうあやうちんあれなれしあもときけと
をうけてまゝと小うへふとああむじううきひやう
きをちやう巻一つとうこううきふ続以づらま

よもよちとあせぬきらけゝもくいもす

よれんげいややう矣れ一すらもソんとせへほりそ
くひ林らあわてぬれんじううのこなーくよ
ふれわらてすてんするそとて大乃まく、ううがどと
たてのひあつまうわされもそけ七ハ尺をあると
みゆる大れ法除ふわい、なほきちんてんぬとづみせ
せん小さきしもそわへくる。麻ほくゆきもれう女
がり、まよわぬゆくくみんかなくひ人とえちわ
きぬなわしぬひで、いゆうあつ、うきひひよわ
モにゆう一たまくとまをあませておめくられハキミ
えきとよきかうすうあるへ来うそゆ新一きわくんも
のせうやうくくしけ戸也にううがるひてゆめあうち
小こうちじうむきのうかげにようもうたちよわ
てまあひなまひうかととくとみの女かとじうへて
いまくこ日みあすう、ぬかくあそろ城ぐをゆるよと
もう一うふあくへ取まをくくへとまけううやく
ねひなまよふくとまくとまくとまくぶをきうせん
とくんじはまきともゆま一度月、よからずしてと思ひ
とまくたまよふくとまくとまくとまくぶをきうせん
すまうあまつよあまくうるひ／＼ふやうほもう
のうちもきうせんうううあふくはうりせん

うへりうへりなむるかくみたまんとつふに
はうこらへう林てまうひける舞まハちやうたいまで
もんとけほくたもんようけを行あふきをもくが
つうひくるうふくくくとくみくさすわうりて
おやうしとくまとやうとくううひける一ごそう
とおもへくもみせハヤとあきのとふいくへ
もれゆめまもめう人にあくつ逃れ風まうほとのい
のちもと何とたうとおりしもんとかまうれん
のじゑをもうてうひすまううけまくふううもう
はうううちやまやまくせんせんちやくえん少くえん
ちやうはうととの力となづれたはうをするせんち
トきおりまふねにひくはれはかしければ
愈えとと無ちやうさんなんれうきせとちうせ終よ
あくゆふわいたうハなふをうめううまうけたす
もあてまくしきんとつよ年ままでうろひ女もうい
おもこみもぬうわうせんげんうとあひあうもう
うやとあひあううやうけうううふれむたう
あけうせうすくれたうとみせうよ金きん魚い
せんそやぬいしょくゆと矣大方とふそりのりうまう
み次おうきいらせんもんもりふれんけいもと

よくちんハキ一だくれのうとあわらきの
袖三ナヘトモもつはどたをもるアーリヒハレモ
女かえれときまきあらとくもちあわせら被げるう
さほとやすきのうとうやなうとおりせくへも巻
ひ一つもりを廻アそんドシコふうにりそきと
のくみんうくもにヤヒシム巻けりえをうけどり
うふはんアラウタケミツリマヌ
小袖みまアリカカウヌヤヘマキとをきあう乃と
へそれやわらは小んぬもとナ人けくうのういく
立人うあくへおくわくるおもひほりのりすふ被も
さいくのきのせとくのをすともふより次も袋も
いとよもそ落アロセキウんアテうのうわくう
くて年暮ハくま壁さんけいとんけ出くらう因くれ
け壁ハあるやうなうれ大あらみをちよひて佛だんの
きにへせんことあらとすのうちきわ表せもくわ
の事あらよ人れじゑあれハラキにあらひみく
をうもたてくさけるアノサス人もうあつきみて
あくアーテモれ表うちかうたうさんうくういそく
乃物かくわとアモスンとくのくぬアキム
中もむわとなアキムのヤクスハシんやれより
あひツアふきこめなまよそせんふきえけとすソーモ
ふゑだうアサルノハアテソはあをむくわ

小みどりんにまもとやうやひうふほだんわ
るり次ハ前をらうハまつまちまんう少々やせ
うの一セキひよけうのいち少くへろうへ称ハ
まふとほどもくまほくまほくまほくまほくま
タケまほまほまほまほまほまほまほまほま
おひづかうとせうとせうとせうとせうとせう
あへれきんまのせうとせうとせうとせうとせう
ととまのまんハむかんをちだせんりとせうとせう
おやうきとねうこよかく一一度うとせうとせう
をトモせてせめやうんすうんれうもなわども
一方キリちんとてうとあすくうわらく小せい
をそろへちうどしのこくうとせうとせうとせう
ウミムカたううんするをキヌマヤヒにうらひうん
もうだんをなふとてうおくほくきとありふことう
うとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせう
とせうとせうとせうとせうとせうとせうとせう
はあたうかとあけよとてあけよとてあけよとて
てひりそれとていあめ史とあくらきとあくらきと
はかくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
あせじうとてあせじうとてあせじうとてあせじう

はうせたまへこそやうもあたう二人りしてある
トしゆき一のまんとすしめけうしたのちあんけいい
まくまくふをほどめときぬうそうぜんにあきてはる
きやうととく一ゆするもとよわんきよく一里うき
わめこれときよふをたえかう女房もひまもそ
り、あらみわうだうともせままでおふはうとを
うきしりはきやうとらやうもんとてうくふちしき
はあらそとくうんはいきも小めへーけうくほほと
不トおとくうほとて四方すわじもあらもうからく
てえんもううちへびよする件事うとたうねきハ
一とだきうまわるおおせと大せととこうでせしむる
とかれむうけぬりひとちう參あらわのまの一人も出
あり次えんもうたちと二へ三魚ドリトヨモリトヨモ
をとらとさあけうわきわてひあやううとのうりうわ
きやううんとできもたすーのとみううりく次うわ
あううがまをくのきやうれよううふれもんと
ううううめうう取くせめへへまやうとたううん
うううとふやううへりーつあううみたりよまきうん
くよいううけつ年暮ハううとまくううれあうう
れと多くへまもあうすは花ハくうんかりうけま、
とされまくまうあくして一け一ねんすいきわと
とれまきいりんやニあくろ形く一うせうい

ソシハコレキヤウノルカホセテソシムうちあにせ
ものともしゆつとあくしゆそんせすやたひとふう
トて月志ハソシキミのうちをもつてきあやせ
少セめられはたものうちれのものもんき小みえ
けりもけゆきもおれあく女もうゆるけいりまくよ
ひさまばまきをありせほすけんじくなましまとや
されハ食はきやれすとものとまのとまを
キトコメくだんの方をきうせくあますまに
大兵太刀のうちわうてもちうるうの方とまう
と見えと一とヤやうみされものをうふすけ
あんきあれうひがまうてうせへりきとそののち
もんを角りをひよもうせと下づーれも年暮
うやうにちくつてもんをひよむきつてソクト
うひげきもあきうらひて一ふよなわせめう
ふもととむてたとひきいきんとのあくあまハ
うひよすちよかうすーとくつきやうのむくや
三百よ人きうそとそらへせめつとくすとトト人
は除うあくまちせんとくふきあくあふざらとなて
あきと三さんわうわはあけーれあくはくわーと
いよきむちやモナ人うこれけるニミヒムヒけ

まちまちはお小あうらトをうちたらが
もんーもんちやうにートーうもののセう人小
うみきわいん小内もわおほるきのももきいあい
つの三三ナにんうちともしカ町町七七ちやうけのひて
ううううみすとあす方ハもめうくいい
ううううとうふほとにまおひもなうわくわえ
のちりいはいかかく女かソゑのこらうともよわ
ああまわ年まとれは神うかくけうと事も
あるまーともをあませらふもいするうほとみま
まややう先度二十人じんめ小少小少とせなむりりうう
小袖小袖ののたうままく大刀かけうつやうす被
ハこののれとわいききうそやうねゆききうまい
りそき上あたすひて小松庵庵へもをせあけられよど
やうれれハゆんけいうおへイきくうひまく
やうあけけきとうんれしこまううきトうりて
大おうんトしなまひしううもやうちんびううまと
てほまよまりとくれよくもんちやう志ける
とならも後戻坊ぼうまませんくげばとま内思いいよ
まわりこういーゆきやうにいくいりやうかからくを
アトきりやくくらせんれ平ひら泉せん寺てあら佛ぶつせんよ
アトかかううきなりーくら少すなまうた、

うううとうううあんじそれともあゆうを
うくうありへいれ二二日いこうひをますて
とせんあるうちきふをあやしうといこうひをとて
わきけりぬかにへて「そぞすか」とあらきまハ
被もあふべきあひをあらがうへたちりまで
えりきもち、大ちもと成さうひもみまれまうす
まもふきのう産よ少はちやるんのでいなかてい上
みはまわをきるのをあけまたくよりきうとをす
おりーときものをあけまたくよりきうとをす
いきあらへ来とわひくわくうりとくをまくきの
大せんあふとうろひとせんよわ内へすいうんとて
わやりりんとくへ何すうとくへるまくは
りふへますりふれいぬも、ものけをなまよ
うのは何くりよ物うとやけきをとくまわき
けすとておとつぬとくもうちまくひこれく物とく
うれれいきわとくふうとくへけきをせまくは
もううとくはますみよれてややうちくぬえのあ
りきてくまわとやえのをほはうたちがううう
よくえひくもとゆくはんこくとたて、け
くははくまわとやえのをほはうたちがううう
くははくまわとやえのをほはうたちがううう

トとくまむじうらもたあやつよくハわニ

うやうあるそらうきのハめんくくかーらをもきう
アレとひとひと大うちとあきそりひくれもりうき
大ちや大イリソミシ成ミリくうもみのんせんを
おちらんすわすうあめりわせんくくにたちも大方
ハキヤともう一わきまきにとううまえも年暮ハ
うちひはふ佛神のはうらひめとふの歌く
さくまゆりうあうりしけれに坊こらやうくハ
せへうて行きとあくへうすともまく小豆
あやまちをまよにあくへ生子をなまくと大
みよかで出るううううふえをうわりう

称よまほまとしてつよやうう被ーいやまよハすまし
ふ被よもりきひとあくめうすりぬかむーう
けよとてあふきとむらまへーーとま称よまわーゆ
よのゆうりいゆへやぬやうしなわちのんまうて
あれううわとよやくうきひだれむううむうキま
ふ被ーうんうがうわもむた角くへうううーうす
むやくくうそひすうせんすむのうなうわ
えもは年暮れうすなりひてあれ坊へりうそ
あきやうもやううみせんとむうせられー大
あらハ生よまうまくうとひのねんちうへゆ

ものとせんとあうせはうへへへへへへふわうい
をうん小ふやうてとはあがめくまともいへあ
ものうふるまけまほうへをあひてふくれもらう
をうへうゑいせんとしきうかよきわかくほくこす
れりきうひのかとくまうへううひける是も
み中ゑへくわけるうを取くりまほのきよもや
えんへあわうぜんとくらうをそくへきうしやう
ぶんきまちちんのごちやうとそくへきうしやう
とふういとだらちうをうけれはまくア六ちやう
くまうとくのして三ほのきうとくまうん
くわう理をあく活かけとくはとくまう
うかまくアうんうふへとあわうれはくよふぬせい
若活除つるととしゆくみふれととれあひとある人ヤ
きるをういたう乃武義坊年暮とくめいよの大むごゆ
うのときうほく小れんとあうてい少をきやうかう
をあうるうきらよはうは角れんと少をハモ
ハモとヤアスある人ヤうるハ西アツつきうのハ
かかうすきんもはうとよすてに大ちや二人じ
うおよひけまくとおと大一ゆやううをうんばせ
ゆくとくがうれてえよーとしとハみあうく
そやくくむうにむうけとすくめりきくとよ

大酒多きされとすものにてあひおけまも大か
人ハシマのまゝせんこもあらずうるをうご
りとありひたまもすわわをかうそに小あれう
あをつま一トゆひことかく
むよ一もうらきうの風すらもにう
きやう一城をけてつかましめや
又危れつゝよひしけとよきて
きんけいはもうけよらにうけ
めうちもあおとすけてほりも
參まられをんあくはれだらきおきてうら
まあんそほとけの跡まくそまふをらしけ
すよらかう一むうとみをあわりひえ
以まよもすめぬ武威うけそ一四にあれあく
きやうはえどもふり一人アラレ被ふる」と思ひ
てきくわえだこまく一つもけすうそりすい
のくわひて水かみとみぎへりせすとんせ
一である石煙乃事や人のうへあくはまう
れ一ふくしてうかぐれんじもうひてうそ
をうらわひけるかまおりふやう人れあく
わきものとあくそよあるまきとうのもちとす
うそとすれとあくそいうせんとわくへり
うそとわくへんをひととくれうすとあ

てんをぬてえしろれらやうまくめにきて
ねんとおひりるをくもよーでこ
ふとたまわうとれんまよとくんとおもひゆく
太ううなう乃うへう
ナーヨあやかうーまわい小そにうわき
トコメあいとさいほうたとだ
わわうちやうのふあくにまうあくまう
きくとほうかくとかくわくわはちやうま
くくと同宿りうきうきのくくと
うなうへれわわうきくつせさんちうる宗
きうまされけおがねうふと海きを大一ゆはうかひ
あきとあがとときすゆく城もち矢をとる物をとわあ
えすみあたかうたうへそのわわきらやうま大あ
うむうひてヤクレーの我山ノ上屋を六ナ里
福んかせいうとおくわむづふくの月のすハキ
ねんらうたいにうてそんドモシテスのかくれ
がくゑをととわせうそんなんわいぬりへりてく
ぬうあせうぶせきうする小あくじくちよをく
もをあわらうこれもとくよんとくすて小あく
ありげはまとうれハ大一ゆをのくとくま
ておもせきうもとくあをちまくにや

六十ゆゆあくくそん一 あくうううう きゅ
とうひふけふうてハキやくそうしゆきや
乃わきゆかんとてきゆく傍ちやきやうちやと一
にうりやがうたうのまくみひますへうわせまハ併
せんにほどめとてのうりげうしゆをすくよくまわ
ぬうえあいのやうわくたんは一やううくさわおし
かちんのひうまききくとらちけくまくうをきくろ
うものもくまれえす称あてううこめ四足六寸
乃たちきりきうちくふかふふざら十じんしよう
うへんてのわきううぬこうわときうてれわき
小毛太角いふてたうけたとき大あゆれゆへ
おもわせの方と元ゆりーあうあひうーと大トゆ
やまとひてううめおきうるーゆきうしやともをく
をんのうちくとあねき一トトトとまときわてもあ
みれのちゆんけいきあく小かくとたてたうゆたちと
もうだとにうんてたううんれたあゆいあく流うちや
きんよとくかうあゆかく乃ゆあくふくんやうと
まくちめりあやういがくしげきふせうんやうと
とあへてニまふうちよそなううけすもせちやうと
一のすうちんせん坊めうゆんとりよ人じくらんち
せひうされりもあきれしのうらひきえもくか
がく乃ふとあニ足一そん川のぼくわり、

を起ちてゑるあきあきわきうりこゝして大
やよわすみりく太れんしやうとせやーも
くくれがもうらのそあの傍方へ人とのふくね
あゆきやうもやれ照きとほおわうせとよもあとの
きまほ所よだつりはうらせめふれそれぬさ
くぬすをけうらよアソセヤナケレキモト
きうりわらひ一セヤアソセヤナケレキモト
さんりむううやまよめをとく一も
ぬとす所トやうも奈一ねれとううやまよ
うもんゆまちんのもうまへいづぬくへま
ふれせまうつううれうあーたゆをゆ
ものうのうへとまきかどひうすり少をそも
河へうらにう參うすうとハシテアうわきをも
うくしゆきやうもやなちうりこうじゆしもくわ
もとくとくとくとくとあつめそのあつともあひまを
うひきんああひをせりよちんがんじうすてう
れとせよーは坊ようきうやくあつうせふへ
えの山うりあふれとソフ魯んげひきひてそそ
ほんぐときうかりうんきのゆへりにま
くぬーをうおてまつかううちわく被をとりふ
せんじんれん行うとたまくへ来も太刀もわふ段
せんにとんでうふキまういらふてあきあくこ

もひきつてうつたうれうへよあけあけうわふん
も太刀城うつ被てもちとぬいきうもうお年をまえ
をみそはうんもあくろをかうならうもうちそもりそ
れともかうたうはうへ小あけきわまくせはとく
までもうまわにきんくふらふあくわうあんちうへ
リうまうと大なるりえくいをきつてうつてかくおむ
すはうせわうひもくらうに穴をうるハ何事そ
あやまちするねとえれもうまいときておう一々堂
のうへ小うせありうわうんかんくへうむんすと
ぐまんとりうまかうふとあんけいふつとまうして
ゆんをうまくよういはうこうまくくあるよこやうし

ともううとそりうとあそそんとをあふざうとぬき
りうううとおうらきちやうとうわうんおんうとう
あやくにだんこもうととぞう殿きのれうろいを
ききすわあううううう立まいかがくとめきくちめ四
しやくらまわのたたちうちうわきううう年まう
まうよ二つよふ被とちやうとううううれま小うま
とくまえせんわき小はそみうるちうわんわん少くらやう
とありせうわだんここうううらうわんけいうわん
わんとやわはうすハはもう抜けふみえうわりうれ
ときあんうんねをあふあたんこだうとソハ太刀と
そでうとれとれんげうたんこはうをもまくまくまく

もすんでうふくかふくは一度小さくとてうちわ
せらあうけのとどくふとつとみを大ゆきこうへ
やね一とふちあたかのうやもう一きうたと
そちへてきつかふまやうかう一とくわ
よきひて二人のうふくとあくたうり
もちあわせけきみちんにくけてあかくきわを
のむくよあきなたうり、ぬくわをもつて
きつてうふはいてんくまうれきくづく角え
けいはきあてら被襟へてもとほすあうれきとす
よきまうれきふまうれきくづくとくづく角え
せんこゆうとうくとくを一もうへおひじけきうて

まくるうのこたちまちむねうのえゆふナよ人まち
ぬせて大せいを東西へもうとあがうしむんげい
ありにあるかとおりへハめつけつきくらきんこらへを
とひめくねほとアリの矢もあくらすきく大ゆ
おふくいしあくとくとくとよりくさゆるにま風
まむわふかきあけてううたうおうへよけあけて
りえくいもまちやをあわさればしゆとこれと元
てらめうきまうあうせんしやうけうとさわせ
きて十方へりうる舞えれをみもんせんす
て出をふうだちうあわやうふらんううう
るたまふふしゆとのあくこうとくらもくくじと

えだうの力れもまよてしるをかくもうせん
とまつてほひひへんくチまうほくわてまゆせは
きりよくあやめのぬこう城ありたまくとくを京
へうかわらるをとくやまわ京へは上下四月りぬま
れからあるとむまかくのあまわいいくことく
うるのあわきよきやうへれかわばまとまいたい三へ
あわりまわりよもやうんくふはしまのちくう
やんちやうけはくとくろそきはくまうあそて
あくすはんく乃拂大事りくくへ下あきく
びらんふはつひあきえ大わんちやうとまうてや
いきくとも照ぐうせうくわみへゑおゑ小松庵へも
がいてはまれとくやきよりくまでせうきわく
ほとよきんちらもれどろきありうてにうたう
トやうくのとへちくくーとまうてはうひる
やくこまうとのとくーよしやへりやむまとまう
てたうぶらくよ上四月イリせれかわてすの
トヤケキハへゑまやううても小さんた
ううるノトよをあううにんくんおわき少は
りしはくとくからんうううのほくらひ少は
ひすふ、うちぶやうういえんまうれはうけやれりそ
さうじもんちやうとくへうやうてまよちやん

とくにうけられり

高水家藏

